

[14_04]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1474962>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 14 (4), 1981-12-10. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



お 知 ら せ

JDJ686I, JDJ657Iのエラーメッセージについて

システムメッセージの部分に出力される以下のメッセージは、ジョブの実行には差し支えありませんので無視して下さい。

- ・ JDJ686I DDNAME REFERRED TO ON DDNAME KEYWORD IN PRIOR STEP
WAS NOT RESOLVED ** ERR **
- ・ JDJ657I SYMBOL NOT DEFINED IN PROCEDURE ** ERR **

(センターニュース No.237, 8月25日発行)

新規に登録されたライブラリについて

以下のライブラリが登録されましたのでお知らせします。

IDコード	内 容	形 式	作 成 者	参 考 文 献
L2/ETCOMP	Lisp関数の編集	コンプリート	九大・理 篠原武	九大センター広報14,2, 1981,231-241
L2/PASDAX	名前参照を伴うPASCALプログラム実行回数計数ツール PASDAX	〃	九大・工 荒木啓二郎 牛島和夫 江嶋博幸 吉田和幸	九大センター広報14,2, 1981,218-230
J6/NHNY	PLOT10用日本文字作描ルーチン	サブルーチン	九大センター 古城久美子 松尾文慎	九大センター広報14,2, 1981,264-271
Q9/NFCMP	日本語ファイル比較プログラム	コンプリート	九大・情処センター 藤村直美	九大センター広報14,2, 1981,272-281
J0/NSTNGY	日本語ファイル圧縮印刷プログラム	〃	九大・情処センター 藤村直美	九大センター広報14,2, 1981,282-286

(センターニュース No.237, 8月25日発行)

英文文書清書システムROFFの改訂について

ROFFが、幾つかの機能拡張を伴って改訂されました。詳細は、文献[1]を参照して下さい。これに伴い、従来のROFFR, ROFFSコマンドは消去します。また、これに付随した単語チェックシステムSPELLの古いコマンドSPELLR, SPELLSも消去いたしますので御注意下さい。

参考文献

1. 牛島, 横山 英文文書清書システムROFFの改訂と使用について, 九大大型計算機センター広報, 14,2,1981,242-263.

(センターニュース No.237, 8月25日発行)

「カタログプロシジャの全面改訂」に関する補足及び変更について

センターニュースNo.234でお知らせしましたカタログプロシジャの改訂の件につき、記号パラ

メータSTEPとプロシジャステップ名との対応が明確でなかったので、ここに補足しておきます。又、ADSLXのSTEPの省略値をGからCGに変更しましたので御注意下さい。以下で、下線は省略値を示します。

カタログド プロシジャ名	STEP	プロシジャステップ名	関連するDD名	
FORTGE FORT77	C	FORT	FORT. SYSIN	
	<u>CGO</u>	FORTCGO	FORTCGO. SYSIN, FORTCGO. SYSGO	
	CG	FORT, LOADGO	FORT. SYSIN, LOADGO. SYSIN	
	CL	FORT, LKED	FORT. SYSIN, LKED. SYSLMOD, LKED. SYSIN	
	CLG	FORT, LKED, GO	FORT. SYSIN, LKED. SYSIN, GO. SYSIN	
FORTH PLI ALGOL COBOL ASM	C	FORT ... FORTHの場合 PLI ... PLI " ALGOL ... ALGOL " COBOL ... COBOL " ASM ... ASM "	FORT. SYSIN PLI. SYSIN ALGOL. SYSIN COBOL. SYSIN ASM. SYSIN	
	<u>CG</u>	" , LOADGO	" , LOADGO. SYSIN	
	CL	" , LKED	" , LKED. SYSLMOD, LKED. SYSIN	
	CLG	" , LKED, GO	" , LKED. SYSIN, GO. SYSIN	
	CALCOMP	<u>CG</u>	FORT, LOADGO, CAL	FORT. SYSIN, LOADGO. SYSIN, LOADGO. FT18F001, CAL. FT98F001
		CL	FORT, LKED	FORT. SYSIN, LKED. SYSLMOD, LKED. SYSIN
		GO	GO, CAL	GO. SYSGO, GO. FT18F001, CAL. FT98F001
NCOBOL	C	NCOBOL	NCOBOL. SYSIN	
	<u>CLG</u>	NCOBOL, COBOL, LKED, GO	NCOBOL. SYSIN, LKED. SYSIN, GO. SYSIN	
ADSLX	<u>CG*</u>	ADSLX		
	G	ADSLXG		
FNAP	CG	FORT, LKED, FNAPG		
	<u>G</u>	FNAP		

*記号パラメータSTEPの省略値の変更

(センターニュース No. 237, 8月25日発行)

磁気テープの記録密度について

磁気テープの記録密度は下記の二つの方法によって決定されます。センターニュースNo. 221でお知らせした方法と若干異なりますので注意して下さい。

- ① カタログドプロシジャMTINITを利用して初期化(イニシャライズ)するとき、DENパラメータを指定する。省略値はDEN = 3 (1600BPI)である。
- ② 磁気テープに順序番号(LABELパラメータで指定する)を1と指定しデータセットを作成するとき、DCBパラメータで①と異なる記録密度を指定すると、この値が①に優先する。省略時は①で指定した記録密度となる。

(センターニュース No. 238, 9月3日発行)

共用ボリュームの利用についてのお願い

TSSの普及、ジョブ件数の増大に伴い、共用ボリュームの利用量は今後も増加することが予想されますが、ボリューム容量、システム効率などの面から無制限に開放量を増すことは難しいので、共用ボリュームを利用される方は以下の点についてご協力願います。

1. すでに確保量が制限値を超えて利用している場合。(リスト仕分情報に警告がある。)
 - 確保量が6 MB以内に収まるようにデータセットの整理をする。
 - データセット個数が20個をこえている場合は、区分データセットにまとめる。
(利用の手引—ジョブ制御文編参照)
2. できるかぎり区分データセットを利用する。(システム内のデータセット数が多くなる分だけアロケーションに時間を要し効率ダウンの一因となるため)
3. 必要のないデータセットは速やかに消去する。
4. 容量の大きいデータセットはMSSのマストストレージボリュームを利用する。

(センターニュース No.238, 9月3日発行)

利用負担金の変更について

昭和56年10月1日から下表により負担金の算出を行っています。

変更点は、全国七大学の大型計算機センター間を電々社の新デジタル通信網(DDX: Digital Data Exchange)により結合する大学間コンピューター・ネットワークの運用に伴い、ネットワーク利用負担金を新たに追加されたことです。

負 担 金 算 定 方 式

(昭 和 56 年 10 月 1 日)

区 分		負 担 金 の 額	
基 本 負 担 金 *		1 件につき	40 円
演 算 負 担 金		上半期 (4 月 ~ 9 月)	
		1 秒につき	6 円 (5 分まで)
		"	3 円 (5 分を超える部分)
		下半期 (10 月 ~ 3 月)	
		1 秒につき	6 円 (20 分まで)
		"	3 円 (20 分を超える部分)
入 出 力 負 担 金	カ ー ド 入 力	10 枚につき	1 円
	カ ー ド 出 力	1 枚につき	2 円
	ラ イ ン プ リ ン タ 出 力	1 頁につき	3 円
		16 行につき	1 円
	日 本 語 ラ イ ン プ リ ン タ 出 力	1 頁につき	7 円
	X Y プ ロ ッ タ	4000 ステップにつき	1 円
		10cmにつき	{ 3 円 (機種 1) ** 10 円 (機種 2)
	フ ァ イ ル ア ク セ ス	25 回につき	1 円
	端 末 入 出 力 ***	10 行につき	1 円
	端 末 接 続	1 分につき	1 円 (セ ン タ ー 外 端 末)
		1 分につき	2 円 (セ ン タ ー 内 端 末)
	デ イ ス ク	100KBにつき	50 円
	マ ス ス ト レ ー ジ	100MBにつき	4000 円
ネ ッ ト ワ ー ク **** 利 用 負 担 金		リ モ ー ト ・ バ ッ チ 処 理 入 出 力	
		5 行につき	1 円
		会 話 型 処 理 入 出 力	
		2 行につき	1 円

* 基本負担金は次のセンター内入出力装置を使用した場合に負担する。

ラインプリンタ、カードリーダー、カードパンチ、磁気テープ装置、XYプロッタ、グラフィックディスプレイ装置、フロッピーディスク装置

** XYプロッタの機種1, 2は次のものを示す。

機種1 …… F6202B (有効用紙幅24・44cm, 2色ペン利用可)

機種2 …… WX625 (有効用紙幅42cm, 3色ペン利用可)

*** 端末入出力にかかる負担金は、センター内タイプライタ端末を利用した場合にのみ負担する。

**** ネットワーク利用負担金は、本センター以外的大型計算機センターを経由して使用した場合に限る。

(セ ン タ ー ニ ュ ー ス No. 239, 9 月 16 日 発 行)

日本語LPの利用方法の変更について

これまで日本語LPはオープンステーションに1台設置していましたが、カッター付のものが開発されたのでこれを2台導入し、他のLPと同じように計算機室に設置します。これに伴い10月26日よりオープンステーションの日本語LPは使用できなくなります。

日本語LPのEBCDIC出力に関しては、1台はカナ(EBCDIK)、別の1台は英小文字が出力できます。

又、日本語LPは重ね打ちができませんので、重ね打ち用の出力クラス $\nabla W \nabla$ を新設しました。出力クラスは次のようになります。

- A : 標準出力(PL/I 60字セットLP, 日本語LP)
- W : 重ね打ち出力(PL/I 60字セットLP)
- K : カナ出力(日本語LP)
- S : 英小文字出力(日本語LP)
- O : 日本語及び図形出力(日本語LP)

カナ出力及び英小文字出力は日本語LPを使用するために重ね打ちはできませんので御了承下さい。出力クラス $\nabla A \nabla$ は日本語LPも使用しますので、重ね打ちを行うときには出力クラス $\nabla W \nabla$ を使用して下さい。又出力クラス $\nabla O \nabla$ はDSFの対象とならずにジョブ実行終了後、直ちに出力されます。

なお、オープンステーションの日本語LPの撤去に伴い、予約制の日本語ディスプレイはターミナル室に移設します。

(センターニュース No.241, 10月20日発行)

データセットに対するRACF保護について

去る6月1日からすべてのデータセットは、従来のカタログ管理に併せてRACF(Resource Access Control Facility)によって管理されています。従って、RACFに登録されていないデータセットは、11月1日から毎日運用開始前に消去されますので御注意下さい。

(センターニュース No.241, 10月20日発行)

TSS端末入出力のロギング収集機能について

11月1日より、利用者がTSSによってシステムと会話したとき、端末上に表示されるTSSコマンド、入力データ、システムからの応答メッセージ等の入出力データ(フルスクリーンモードでの入出力を除く)をログ情報として、データセットに収集することができるようになります。作成されるデータセットは、シスアウトデータセットか、又は順データセットで、あらかじめDD名"SYSTSLOG"に割当てられていなければなりません。

本機能を利用するには、下記のコマンドを使用します。

コマンド形式

コマンド名	オ	ペ	ラ	ン	ド
LOG	[START END PAUSE]	[CAPS ASIS]	[NOTIME TIME]		

オペランドの説明

- START : ログ情報収集を開始, 又は“PAUSE”指定による一時停止を解除する.
- END : ログ情報収集を終了する.
- PAUSE : ログ情報収集を一時停止する.
- CAPS : 英小文字を英大文字に変換する.
- ASIS : 英小文字を英大文字に変換しない.
- TIME : ログ情報に時刻を付加する.
- NOTIME : ログ情報に時刻を付加しない.

使用例

```

READY
ALLOC F(SYSTSLOG) DA(LOGEXAMP.DATA) NEW
READY
LOG START
*** TSS LOGGING STARTED TIME=10.00.00 DATE=10/15/81 ***
READY
...
...
READY
LOG END
*** TSS LOGGING ENDED TIME=11.00.00 DATE=10/15/81 ***
READY
LOGOFF
    
```

(センターニュース No.241, 10月20日発行)

JISコード系TTY手順端末のサポートについて

10月12日より, TTY手順の端末コード系をシステム編集によらず, コマンドによって動的に選択できるようになりました。ログオン時には, 標準のASCII(英小文字を使用できるコード系)になっていますので, JIS7コード(カナ文字)を使用するには, 下記コマンドによって, 端末のコード属性を変更する必要があります。詳細は文献[1]を参照して下さい。

コマンド形式

コマンド名	オペランド
SETCODE	$\left[\begin{array}{l} \text{LIST} \\ \text{INTERNAL} \left(\begin{array}{l} \text{ALPHA} \\ \text{KANJI} \end{array} \right) \end{array} \right]$

オペランドの説明

LIST : 現在使用している内部コード, 端末コードの種類を表示する.

INTERNAL : 端末との入出力の際に基本となる内部コード, 端末コードの組を定義する.

ALPHA : 英小文字を使用できるコード系 (ASCII)

KANJI : カナ文字を使用できるコード系 (JIS7コード)

参考文献

1. 計算機マニュアル TSS コマンドセットTTY使用手引書 64 SP-2140 富士通株.
(センターニュース No.241, 10月20日発行)

投 稿 の し お り

センターでは利用者の方々とより深い交流をはかるため, 次のような種類の原稿を募集しています.

1. 随 想
2. 計算機を利用して行なった研究・開発の紹介
3. プログラムの実例と解説
4. センターに対する質問・要望
5. 利用者の声
6. その他計算機に関すること

執筆上の注意

1. 原稿用紙は原則として, 当センター規定のものを使用してください。(共同利用掛にあります)
2. 黒鉛筆, 黒ボールペン, 黒インクのいずれかで書いてください。
3. 原則として, 当用漢字, 現代かなづかいで統一してください。
4. 図, 表は別紙に明瞭に書き, 挿入位置を明示してください。
5. 別刷は原稿提出時に希望があれば, 50部まで無料とします。ただし, 配布先一覧が必要です。

原稿の掲載については広報教育委員会で検討させていただきます。その他投稿に関するお問合せは共同利用掛 (TEL. 内線 2505) へどうぞ。

原稿の送付先は次のとおりです。

福岡市東区箱崎6丁目10番1号 (〒812)

九州大学大型計算機センター 共同利用掛